

震災発生直後

職員一人ひとりが発生直後の役割を確認！  
**災害時活動マニュアル検証**

地震は発生直後の初動時の対応が、その後の円滑な復旧・復興に影響すると言われています。市内で震度6弱から6強の地震が発生したと仮定して、発生後おもに24時間以内の対策を災害時活動マニュアルを使ってシミュレーションしました。



▲被害の報告の方法や具体的な対策について検証。

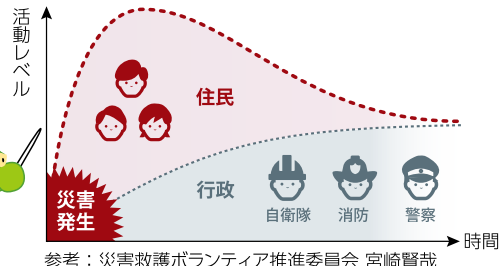
地域の力がいのちを救う！  
**自主防災**

大震災の発生直後は、交通網などのライフラインが機能せず、消防や警察、自衛隊などがすぐに駆けつけられないことがあります。その間、自分たちのいのちを守るためには地域での協力が必要不可欠です。万が一に備えて、日ごろから地域の皆さんと災害時の活動について、話し合いをしてみたいはいかがでしょうか？

災害発生初期の  
 応急対応は、住民の  
 力にかかっています！



住民同士のパワーが重要



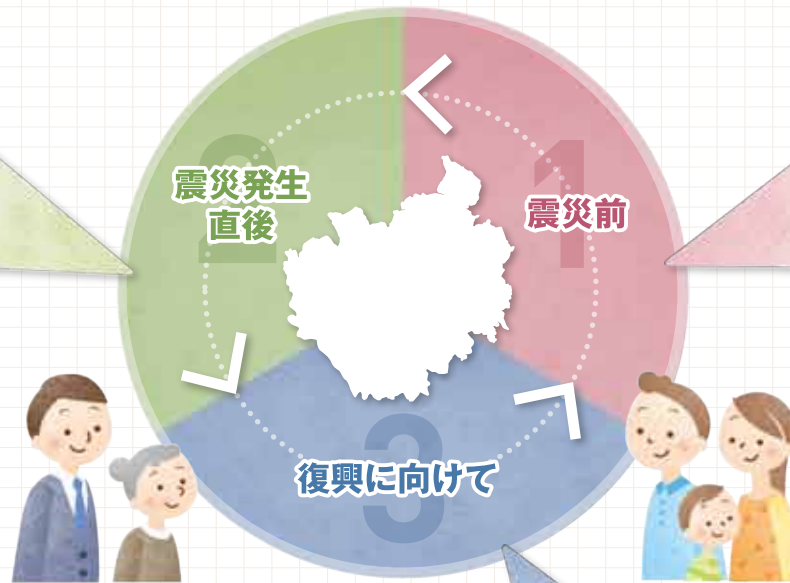
個人でも  
 できること

- 2、3日分の飲料水・食料の備蓄
- 家族で集まる避難場所の確認 など

個人・地域・行政で取り組む

# 地震に備えた まちづくり

今後、さいたま市内でも大地震の発生が想定されていることがわかりました。たとえ大規模な震災を受けても、いのちを守り力強く立ち上がることが大切です。そのために、地震発生前・発生直後、復興の3つの視点で考えること。そして、市民の皆さん一人ひとりや地域で協力してできること、行政と一緒にできることを考える必要があります。私たちにできる取り組みを確認していきましょう。



1 震災前

災害時のリスクを事前に減らす！  
**危険箇所の確認「まちあるき」**

平成26年2月、市の職員と芝浦工業大学の学生や教授で、市内の災害リスクの高いと思われる地区の点検「まちあるき」を行いました。日ごろから家の近所の危険箇所を点検することで、災害時のリスクを減らすことができます。



▲それぞれが気付いたところを確認し合い記録しました。

参加者の声



芝浦工業大学3年 飯島 卓也さん

今回まちあるきをした地域は、「火の用心」の看板や張り紙などが見られ、防災への意識の高さが感じられました。災害の危険性や被害想定などをきちんと伝え、より防災への意識を高めてほしいです。



芝浦工業大学4年 大野 孝裕さん

地図では何も問題ないところも、実際に歩いてみると、道路が狭いなど整備が不十分なところがありました。また、天候が悪かった場合に備えた、整備の必要性も感じました。

個人でも  
 できること

- 住宅の耐震診断や補強、家具の転倒防止策
- 避難経路の安全性の確認 など

復興に向けて

ワークショップで職員の災害対応能力を強化！  
**さいたま市復興イメージトレーニング**

大規模地震で被災したまちの復興に備えるための手法として、埼玉県と東京大学が開発したイメージトレーニングを、県や市の職員、まちあるきをした学生が実施しました。このトレーニングは、元の生活を早く取り戻したいという生活者の立場と、どうすれば被災を繰り返さないようなまちにできるかという行政の役割を理解し、整合させながらまちの復興のシナリオを考えていくものです。

市では、繰り返しトレーニングを行うことで、職員の災害への対応能力を向上させていくとともに、今後は、市民の皆さんと一緒に復興について考えていきます。

個人でも  
 できること

- 生活再建とまちの復興をイメージする
- 地震保険への加入 など

個人・地域・行政  
 一体で考える  
 まちづくりを目指して

大震災から得た教訓により、個人は自分のいのちを守るため危機感を持って災害に備え、その意識を持ち続けることがとても大切です。さらに、地域は「丸」となり協力体制をつくり、市は都市の根本的な安全性の強化を図るとともに個人や地域のサポートを行います。このようにそれぞれがやるべきことを正しく理解し、一体としてきちんと備えることが災害に負けない「まちづくり」につながっていくのです。

TOPICS (仮称)防災都市づくり計画 検討中

(仮称)防災都市づくり計画は都市計画マスタープランにある「防災まちづくりの方針」を具体化するためのアクションプランです。

【計画の目的】

- 災害に強い安心・安全な都市を形成するための方策を示す
- 災害が起きても市民生活を支えるために必要となる取り組みを示す
- 被災しても円滑に復興するための行動指針を示す

平成26年4月に基本方針(案)のパブリックコメントを予定しています。

皆さんからの  
 ご意見お待ち  
 しています!!

